

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲

2024

1月

No.116



兵庫県立尼崎総合医療センター

Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより



「巻頭」**新年のごあいさつ**
「診療科紹介」**集中治療科**

●「ぶらり〜と病院探訪」看護部災害シミュレーション

●「AGMCニュース」近畿地方DMATブロック訓練の

活動拠点本部となりました



兵庫県立
尼崎総合医療センター
院長 平家 俊男

院長 新年のご挨拶

謹賀新年



はじめに

新型コロナウイルス感染症の分類が感染症法上5類に変更になり、半年余りが経過しました。新常态での医療のあり方を模索中です。これからも“with コロナ”下での地域を支える医療機関として歩みを進めていきます。

また、「兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）」は開院8年が経過しました。「目指すこと」3項目は、引き続き継続します。(1) 本格的地域完結型医療の推進・充実！(2) 医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院！(3) 量から質へ！をもう一度反芻し、あらたな気持ち・視点で、医療に従事したいと思っています。

新型コロナウイルス感染症

令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、2類から5類へと変更になりました。10月ころまでは、多くの感染者数を依然として認めていましたが、幸いにも、重症患者の診療が逼迫している状況を免れています。年末年始においても比較的落ち着いた状況でしたが、新型コロナウイルスが無害になったわけではなく、消えてなくなったわけでもありません。特に医療機関においては、感染拡大防止対策の継続は必須事項です。院内でのマスクの着用は継続し、感染拡大防止、通常診療を両立させるために皆さん一緒になって取り組みましょう。

本格的地域完結型医療の推進・充実

本院の役割は、尼崎市のみならず人口約175万人の阪神医療圏+約45万人の大阪市西部地域の医療・介護全体と連携・協調し、日本に誇れる質の高い高度急性期・高度専門・先端・政策医療の部分を担うことです。さらに、日本に誇れる質の高い診療内容を担保するため研修・教育・研究も重点課題です。AGMCは、ベッド数730床、医師416名、看護師1,180名を擁し、充実したER型救命救急センター、ICU・CCU等の重症系病床、低侵襲心血管治療センター、ハイブリッド手術室やロボット手術室を含む18の手術室、最新鋭のがん診断・治療設備等がフル稼働しています。AGMCに求められることは、これらの充実した資源・設備をフル活用しレジリエンスのある病院組織を編み上げることです。それにより、地域の医療・介護全体との一層の連携・協調が可能になります。これを充実させる方策の一つとして、昨年2月27日に北館を建設し、患者サポートセンター、併せてがんセンターを再整備しました。もともと本館で機能させていたものですが、患者さん・地域の医療機関の皆様にとって一層の利便向上、働き方改革の観点から職員の利便向上に繋がるようにパワーアップさせたものです。



医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院

柔軟な組織運営には、マネジメント・サービス（の向上）が必要です。職員全員が各部門での当事者意識を持つとともに病院全体の視野も入れて、どのような取り組みがマネジメント・サービスの向上に繋がるか、常に頭の片隅におきながら知恵を出し合ひましょう。マネジメント・サービス（の向上）は、職員の皆さん自身の働き方を見直す上でも必要です。「働きたい病院」「働きやすい病院」「働き甲斐がある病院」を目指し病院も変化（進化）していく（病院ガバナンス）必要がありますし、職員の皆さん自身も意識を向けて（自己ガバナンス）頂きたいと考えます。令和6年4月からは、医療法に基づく「医師の働き方改革」が始まります。

量から質へ

高度専門医療の充実（特にがん診療の充実）、PFM(patient-flow-management)の充実（外来・入院・退院・転院・在宅・介護全体を見渡す対応）、医療安全、職場環境、接遇等、様々な局面での一層の質的面の充実を進めていきます。このたび整備した患者サポートセンターでは、本館に散在していた様々な機能をより簡便に、かつワンストップで提供できるようにすることで、患者さんの利便性ととも、職員の働き方にも一石を投じることができています。また、再整備したがんセンターでも、がん診療に関する様々な機能を集約しました。これに付随し、11月1日からは、がんゲノム医療連携病院の指定を受けることができました。コロナ禍のまっただ中でも、AGMCの医療の質向上を目指して歩みを続けてきた証しです。

併せて、足元も固めて

AGMCが誕生して8年。新型コロナウイルス感染症という試練を、私たちの足元を見直す機会と捉え歩んできました。しかし、私達はここでこの現状に甘んじていることはできません。これから、ますます組織としての充実度を高めていく（マネジメント強化、サービス向上）時期です。

ややもすれば目新しい標語に惑わされ、そのもとで取り組みを積み重ねていかなければならない強迫観念に縛られがちですが、実際に必要なことは落ち着いて、「足元を固め、当たり前のことを確実に当たり前にやる」ことではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の分類が第5類に変更になったと言っても、まだまだ注意が必要です。このような困難な状況を受け入れ、社会が必要とする医療を継続して提供できるよう成長し続けていきます。

あらためて、地域、社会の皆様には、温かいご支援とともに叱咤激励を宜しくお願い申し上げます。

令和6年元旦

兵庫県立尼崎総合医療センター 院長 平家 俊男

集中治療科

私たちの仕事は、重症化した患者さんが、安全に日常生活に戻って行く支えとなることです

医療の高度化に伴い、専門診療が複雑化している現在、予期せぬ合併症、重症化は一定の割合で起こってきます。

集中治療科は、そのような状態になった、あるいはなる可能性のある患者さんを、内科、外科疾患を問わず、GICU、GHCUに入室していただき、回復していただく業務に従事しています。

最近の出来事では、2020年から日本中で猛威を振るったCOVID-19の大流行時には、当院でも多数の患者さんが重篤な呼吸不全となり、長期間の人工呼吸管理を必要とする状況になりましたが、GICU、GHCUで多くの患者さんと粘り強く向き合い、人工呼吸器から離脱していただくことができました。

看護師をはじめ、薬剤師、臨床工学士、理学療法士、管理栄養士など、様々な専門職種が、輪になってその力を発揮するチーム医療で、一人でも多くの重症患者さんに回復していただけるよう、日々の診療に従事しています。

構成メンバー

集中治療医8名+医療秘書1名



[写真左から] 嶋岡科長/三住部長



GICU風景
(他職種ラウンド)



GHCU風景

提供する主な活動内容

大手術の術後患者さんや重篤な合併症に陥った患者さん、院内急変患者さん、さらには院外からの救急患者さんを、重症度によって、GICU、GHCUで診療します。集中治療科の開設以降、年々GICU、GHCUに入室する患者数は増加し、重症患者さんが占める割合も、飛躍的に高くなっています。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

当院が誇る各専門診療科が、安心して専門診療を提供できるよう、全力でバックアップします。安心して、先生方の患者さんをご紹介ください。



ぶらり〜っと
病院探訪

看護部災害 シミュレーション

いつ発生するか分からない災害
災害時に自分たちのとるべき行動がしっかりとれ、災害拠点病院としての機能が果たせるよう、
災害シミュレーションを行い訓練しています。シミュレーションは全ての部署で年1回実施しています。

1

自分自身の安全確保



シェイクアウト訓練

「まず低く、頭を守り、動かない」
地震の際は、揺れがおさまるまで
まず自分自身の安全を守ります

2

患者さんの安全確認



患者さんの元へ行き、
病状や怪我の有無の
確認を行います

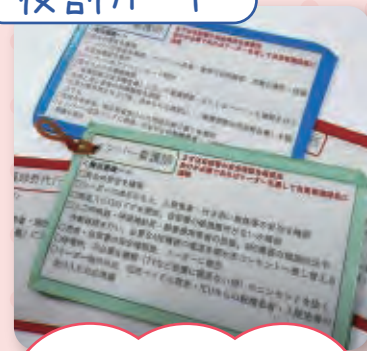
3

設備の破損 状況確認



医療機器や
設備の破損がないか、
使用可能かどうかを確認します

役割カード



自分の役割を
確認しながら行動します
役割カードに従って確認することで、
確認内容に抜けがないように
しています

4

情報共有



それぞれが
確認した内容を
勤務者全員で共有します
その後、看護管理室に部署の
状況を報告します

災害時に役割行動がとれるよう
取り組んでいます!





近畿地方 DMATブロック訓練

DMATとは…Disaster Medical Assistance Team(災害派遣医療チーム)の略

令和5年11月11日(土)に、近畿地方DMATブロック訓練が7年ぶりに兵庫県で実施され、当院は阪神南地域東部の活動拠点本部となりました。医師、看護師、業務調整員(放射線技師、薬剤師)等、DMAT資格を有する当院スタッフも多数参加しました。

訓練では、集中豪雨に伴う河川氾濫や、地震の発生により、兵庫県南部で被害が多発したという想定のもと、県庁に設置されたDMAT調整本部を中心に、神戸・阪神・播磨地区等において、近畿圏内各地から参集したDMATチームの災害医療活動が展開されました。



南館に本部を設置し、情報分析・搬送調整・通信等の担当に分かれて作業する様子



県内各拠点本部とのオンライン会議の様子



当院に参集した京都府のDMATチームの活動を指揮する様子

当院は阪神南地域東部の活動拠点本部として、情報分析や搬送調整等のほか、県外から参集したDMATチームの指揮等を行い、今後のDMAT活動向上のための多くの学びを得ることができました。



編集
後記

あけましておめでとうございます。

みなさんはどのようなお正月を過ごされましたか?私は毎年実家に帰省しておせちを母と作るのですが何故か毎年同じ様な会話をしながら作っています。笑

実はおせちはあまり好きではありませんでしたが年々美味しいと感じるようになってきました。人に作ってもらえるごはん、そして親のありがたみをひしひしと感じています…。

本年も職員一丸となり地域の皆さまに貢献できるよう、当センターと「あまが咲だより」をどうぞよろしくお願い申し上げます!(Y.S.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <https://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索